

令和4年度食物アレルギーオンラインセミナー質疑応答

Q1 アナフィラキシーの症状が現れた際、子どもをおんぶしたり、動かすと、症状がより進行して悪化してしまうと聞くのですが、実際の場面で腹痛や下痢の症状から「トイレに行きたい」と子どもが訴えた場合、どうすれば良いのでしょうか。調布市でおきた食物アレルギーによる事故を考えても、トイレへ移動させるのは、危険に感じました。どうしても我慢できない場合は、その場で用を済ませるほうがよかったですのでしょうか。

A1 移動させるのに危険を感じる状態であれば、その場で用を済ませることも選択肢になります。一方、腹痛や下痢の症状があるが、腹痛の程度が強くない場合は、トイレに連れて行ってもよいでしょう。ただし、必ず付き添ってよく観察してください。また、鍵をかけないようにさせることも必要です。

Q2 アナフィラキシーほどではないアレルギー症状の促進因子は、アナフィラキシーを起こす促進因子と同様と考えてよいのでしょうか。

A2 促進因子とは、アナフィラキシーを増幅させて、重篤または致死性のアナフィラキシーの要因となるものです。アレルギー症状が複数あればアナフィラキシーになりますので、アレルギー症状の促進因子として考えてもよいでしょう。

Q3 喘息コントロールについて、他のアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎や花粉症など）との関連性を教えてください。

A3 喘息（特にコントロール不良例）の存在はアナフィラキシーの重篤化の危険因子ですが、他のアレルギー疾患（アレルギー性鼻炎や湿疹）は併存疾患としてアナフィラキシーを増幅させる促進因子となります。ただ、その中でも、喘息コントロール不良例は要注意です。

Q4 患者さん自身は食物アレルギーと考えていても、客観的には食物アレルギーに該当しないと思われる例があります。分かりやすい判断基準や対処方法があれば教えてください。

A4 実際に、患者さんはどのような経過でどのような症状が出現するために食物アレルギーと考えられているのでしょうか？また、客観的にはどの点が該当しないと思われているかが不明のため正確な回答ではないかもしれませんが、いずれにしても、まずは、患者さんの主治医がどのように診断されているかが重要と思います。アナフィラキシーの鑑別疾患はいくつもあります。例えば、過換気症候群で呼吸が苦しいと訴えた場合、食事摂取後2時間以内に起こると食物アレルギーとの鑑別が必要になります。その場合は、紙袋法のように、疾患に併せた対処方法があるので、まずは、主治医に確認してください。

Q5 重篤症状を見誤り、まだアナフィラキシーショックとまでは言えない症状の時点で、発症強度の強い場合に服薬する薬を飲むことのリスクはありますか。

A5 発症強度の強い場合に服薬する薬剤（飲み薬）はありません。症状が重症ではないときに、エピペンを投与した場合のリスクのことであれば、重篤なリスクはないと考えてください。動悸や頻脈、頭痛、熱感などを訴えることはありますが、15分以内には落ち着きますので、そばで様子を観察してください。

Q6 アドレナリン自己注射薬を打つタイミングが早すぎた場合、副作用が出る恐れなどがありますか。

A6 動悸や頻脈、頭痛、熱感などを訴えることもあります。ただ、15分以内には落ち着きますので、そばで様子を観察してください。

Q7 内服薬で様子をみてよいところを、早い段階でエピペンを打ってしまった場合、リスクはありますか。

A7 動悸や頻脈、頭痛、熱感などを訴えることもあります。ただ、15分以内には落ち着きますので、そばで様子を観察してください。

Q8 動画では、繰り返し嘔吐をし始めたらエピペンを打つタイミングとありましたが、その1つ前の段階の全身の赤みや蕁麻疹の中等度の段階でエピペンを打ってしまっても良いのでしょうか？そのような症状の子どもを目の前にし、辛そうにしていたらこの段階で打った方が良いのでは？と迷ってしまいそうです。

A8 全身の赤みや蕁麻疹のみであれば、一般的にはエピペンは不要です。しかし、過去に重篤なアナフィラキシーの既往があり該当食品を誤食した時は、中等症でも、投与を考慮することになっています。エピペンのタイミングは事前に主治医に確認（指導表に記載）してください。全身の赤みや蕁麻疹で、かゆみが強くて辛そうな場合は、抗ヒスタミン薬内服に加えて、涼しい環境におき、皮膚表面を濡れたタオルなどで冷やすことで対応してください。皮膚以外の症状（例えば、呼吸症状）が進行するようであればエピペンを投与してください。

Q9 アレルギー症状が起きたときにアドレナリン自己注射を打つ前に抗ヒスタミン薬を服用した場合、注射を打つタイミングを教えてください。抗ヒスタミン薬を服用しても症状が改善しない場合はどのくらい経過を見るもののでしょうか。

A9 症状が進行するようであれば、抗ヒスタミン薬とエピペンは同時に行ってもよいと考えてください。そのような場合は、抗ヒスタミン薬の効果を待つ必要はありません。抗ヒスタミン薬は、かゆみ、蕁麻疹、赤み、くしゃみは軽減しますが、呼吸器症状や血圧低下などを防止、改善するものではないことを理解してください。皮膚症状のみであれば、抗ヒスタミン薬の効果が出るまでに30分程度で症状は軽減してきます。

Q10 小学校で養護教諭をしています。本校でもアナフィラキシーの既往があり、エピペンが処方されている児童がいます。校内研修では、先生方に「迷ったら打ってください」と伝えています。軽症、中等症の時にエピペンを打った場合の体の影響はどのようなことがあるのでしょうか。あるいは、重度の症状が現れるまではエピペンを打たないで、内服薬を飲ませて様子を見たほうがいいのでしょうか。

A10 軽症、中等症でエピペンを打った場合、特に重大な体への影響はありません。ただし、動悸や顔面の紅潮などが重症の時よりも感じるかもしれません。軽症では、内服薬を飲ませて様子を見た方がよいでしょう。中等症でも、症状が進行していく様子があれば、エピペンを使用してもよいでしょう。

Q11 既往がない者がアナフィラキシーを起こした場合の対応で最も重要なことを教えてください。

A11 重症度に応じた初期対応を行うことで症状の進行を抑え、救命率を向上させることができます。救急隊の到着や、医療機関へ搬送する前に、ひとつでも多く対応を現場で行うことが重要です。

Q12 既往がなく、学校で初発の症状が出た場合の救急車要請の基準を教えてください。

A12 緊急性が高いアレルギー症状（食物アレルギーの重症度分類で重症）があれば、即座に救急要請をしてください。また、現時点ではそのような症状がなくても、5分毎に症状を観察し、緊急性の高いアレルギー症状が出現するようであれば、その時点で救急要請してください。

Q13 初めてアナフィラキシーを起こし、エピペンを処方されていない場合の対処法を教えてください。

A13 食物依存性運動誘発アナフィラキシーなどの病型では、これまでにアレルギー症状を呈したことの無い児童生徒への対応が必要となることがあります。このような状況では、処方薬がなく対応は限定的になりますが、重症度に応じた初期対応を行うことで症状の進行を抑え、救命率を向上させることができます。救急隊の到着や、医療機関へ搬送する前に、ひとつでも多く対応を現場で行うことが重要です。具体的な対応としては、意識状態や呼吸、脈拍などを確認して児童生徒の安静を確保する、応援を呼ぶ、救急要請する、原因食物の付着があれば除去する、体位を調整する、などが挙げられます。

詳細は群馬県が発行する「学校における食物アレルギー対応マニュアル」(<https://www.pref.gunma.jp/site/kyouiku/5232.html>)を参照してください。「緊急時（アナフィラキシー）の対応」の中の「学校におけるアナフィラキシー緊急対応例」「食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応」「緊急時対応のフローチャート」等を参考にするとよいでしょう。

Q14 薬やエピペンを持っていない子に誤って除去すべきものを食べさせてしまったときの対応を教えてください。

A14 症状が軽いために薬やエピペンを持っていない場合は、口に残っているようであれば吐き出させ、うがいをさせる。安静にさせて、30分から1時間は症状の出現の有無を確認します。症状がなければ、様子観察でよいでしょう。ただし、症状が出現するようであれば、皮膚症状のみか、それ以外の症状が出現するかなどを確認して、応援を呼び、救急要請する、体位を調整する、などが挙げられます。

Q15 保育園であずかっている子どもはエピペンを持っていません。その様な場合の対処法を教えてください。

A15 対応は限定的になりますが、重症度に応じた初期対応を行うことで症状の進行を抑え、救命率を向上させることができます。救急隊の到着や、医療機関へ搬送する前に、ひとつでも多く対応を現場で行うことが重要です。具体的な対応としては、意識状態や呼吸、脈拍などを確認して児童生徒の安静を確保する、応援を呼び、救急要請する、原因食物の付着があれば除去する、体位を調整する、などが挙げられます。

詳細は群馬県が発行する「学校における食物アレルギー対応マニュアル」(<https://www.pref.gunma.jp/site/kyouiku/5232.html>)を参照してください。「緊急時（アナフィラキシー）の対応」の中の「学校におけるアナフィラキシー緊急対応例」「食物アレルギー・アナフィラキシー発症時の対応」「緊急時対応のフローチャート」等を参考にするとよいでしょう。

Q16 エピペンを使用したとき、痛みを感じますか。

A16 注射ですから、痛みは伴います。ただし、アナフィラキシー症状が出ている場合、特に症状が強く出ているほど痛みは感じないようです。

Q17 学校では、職員向けにアレルギーの研修や、エピペントレーナーでの研修をおこなっていますが、マンネリ化してしまいがちです。ご講演の中にあつた初期対応に関するクイズは、とてもわかりやすく、先生方への研修に使わせていただけたらありがたいと思いました。動画であつた Q4 と Q5 の映像資料は、どこからダウンロードできるのでしょうか？

A17 「アレルギーポータル：<https://allergyportal.jp>」サイトにある「研修・講習会・eラーニング」というバナーから「食物アレルギーによって起こる症状と治療について」をクリックすると、フリーでダウンロードできます。講演では、そこから初期対応に関するクイズおよび映像資料を拝借しました。